

産褥期の子育て支援をする祖母の疲労に対する主観的・客観的評価による検討

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2021-06-10 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 田幡, 純子 メールアドレス: 所属:
URL	https://jair.repo.nii.ac.jp/records/2003368

授与機関名 順天堂大学

学位記番号 甲第 30 号

産褥期の子育て支援をする祖母の疲労に対する主観的・客観的評価による検討

(Examination by subjective and objective evaluations of fatigue of grandmothers who support parents during the puerperium period)

田幡 純子 (たばた じゅんこ)

博士 (看護学)

論文内容の要旨

【目的】

本研究の目的は、生後3ヶ月以内の孫の育児支援をする祖母の疲労の様相を明らかにするために、①主観的評価を可能にする「祖母用育児支援疲労感尺度」の開発を行うこと(研究1)、②育児支援をする祖母の疲労を主観的・客観的に評価し、疲労に関連する要因を探索すること、また、③疲労と生活の質(Quality Of Life: QOL, 以下 QOL)の関連を検討すること(研究2)である。

【方法】

生後3ヶ月以内の孫の子育て支援をする50歳から69歳の祖母200名を対象に、横断調査による尺度開発のための質問紙調査を行い、信頼性・妥当性の検討をし、「祖母用育児支援疲労感尺度」を作成した(研究1)。次に、疲労の実態を明らかにし、また、疲労感とQOLの関連を明らかにするため、調査時において、過去1週間の間に生後3ヶ月以内の孫の子育て支援を行った51歳から69歳の祖母を対象に質問紙調査を行った(研究2)。調査内容は、疲労の主観的評価指標として研究1で開発した尺度「祖母用育児支援疲労感尺度」得点、客観的評価指標として「睡眠アプリ」を用いて測定した睡眠状態の就床時間、睡眠時間、睡眠効率、覚醒回数 of 測定結果、QOL評価として「WHOQOL26」得点とした。分析は記述統計と推測統計を行った。

【結果・考察】

『祖母用育児支援疲労感尺度』は、「心身の疲労」「睡眠の不調」「子育て支援への負担感」の3因子、17項目で構成され、信頼性・妥当性が確認された。

育児支援をする祖母は、一般集団と比較して、就床時間は短い($p < .05$)が、睡眠効率は維持される(中央値 95.0%)ことが示された。一方、疲労感の高低によって睡眠効率の相違が示された。育児支援をする祖母の疲労感は、祖母自身が自身の健康を悪いと捉えるほど「心身の疲労」が強く、また里帰りがあると「子育て支援への負担感」が強くなることが示された。加えて、疲労感が低い群では一般同年代女性よりQOLが有意に高い($p < .05$)ことが示され、疲労感を下げる支援によってQOLが高まる可能性が考えられた。

【結論】

これまで適切に測定することが困難であった出産後3ヶ月までの育児支援をする祖母の疲労感について、心身の疲労、睡眠、子育て支援負担から測定する「祖母用育児支援疲労感尺度」の開発により、祖母の疲労の様相のいくつかが明らかになったことから、祖母の疲労の特徴を考慮した育児支援に対する祖母への看護支援の可能性が示唆された。